東京2025世界陸上サステナビリティプラン

持続可能な大会の実現を通じて未来に向けた国際スポーツの新しい世界標準、“東京モデル”の確立を目指します

- 気候変動・エネルギー、暑さ対策
- 資源循環・持続可能な調達・廃棄物削減
- 環境改善
- 開かれた大会運営等
- 多様性、陸上への関心、ウェルビーイング等
- PR・気運醸成

東京2025世界陸上サステナビリティプランについて

東京 2025 世界陸上競技選手権大会　開催基本計画（2023年 11 月）では、「今後の国際スポーツ大会のモデルを示す」というミッションを掲げています。このミッションには、「スポーツの原点に立ち返り、シンプルな運営などを通じた持続可能な大会を目指す」という思いが込められています。また、目指すべきビジョンとして、「東京モデル ～明日への希望と持続可能な未来へのステップ～ 」では、コンパクトで環境に配慮した持続可能な大会の実現や、フェアネスを体現した信頼される組織運営を通じて、未来に向けた国際スポーツの新しい世界標準、“東京モデル”を確立することとしています。

このたび、持続可能な大会を実現するため、大会スポンサーや東京都と連携し、本大会及び開催前から実施する取組をまとめた「東京2025世界陸上サステナビリティプラン」を策定いたしました。

環境的側面及び社会的側面の取組を実施するとともに、都民、国民からのスポーツへの注目度が高まるこの機会を捉えて、ビジョンやメッセージをより多くの人たちに届けていくため、広報や気運醸成の取組を連携して展開していきます。

東京2025世界陸上サステナビリティプランについて

東京2025世界陸上サステナビリティプランは、以下の3章で構成しています。

第1章　東京2025世界陸上サステナビリティプランの構成

第2章　主な取組、大会後の報告、ロードマップ

第3章　主な取組のピックアップ紹介

第1章　東京2025世界陸上サステナビリティプランの構成

- プラン全体の構成
- 開催基本計画に掲げるミッション、ビジョン
- ビジョンの実現に向けた取組
- WAの持続可能性に関する取組
- 大会における持続可能性の取組の方向性
- WAの6つの柱と本大会における取組

東京2025世界陸上サステナビリティプランの構成

環境的側面の取組

気候変動・エネルギー、暑さ対策

- 次世代型ソーラーセルの活用
- バイオ燃料の活用
- 暑さ対策
- 電気自動車等の活用
- 公共交通機関の活用
- 廃食用油から製造されたSAFの活用
- グリーン電力証書の利用やCO_2削減プロジェクトへの貢献

資源循環・持続可能な調達・廃棄物削減

- ボトルtoボトルの実施
- マイボトルの持参呼びかけ
- リースの活用、環境配慮調達
- 食品ロスの削減

環境改善

- プロギング
- 大気環境モニタリング
- 施設改善と大会後の活用

社会的側面の取組

開かれた大会運営等

- こどもたちの大会運営体験
- ボランティアの大会運営参加
- 選手の平等な施設利用

多様性、陸上への関心、ウェルビーイング等

- 多様な人材採用と人権尊重
- 会場のアクセシビリティ向上
- 陸上教室の開催、冊子の配布
- 選手、スタッフ等にセーフガーディング情報を提供

PR・気運醸成

- 環境配慮の気運醸成
- アスリートによる発信

東京2025世界陸上サステナビリティプランの構成

開催基本計画に掲げるミッション、ビジョン

■ **大会を成功に導くための基本方針となるミッションとビジョン**

ミッション	ビジョン
多くの人々に夢や希望を届ける 今後の国際スポーツ大会のモデルを示す	東京ドリーム　東京ブランド　東京モデル

■ **大会の成功に向けた取組と、未来へ紡ぐレガシー**

ビジョン実現に向けた取組を通じて、大会開催で得られるかけがえのない経験をレガシーとして未来へ紡ぎます。

東京ドリーム

アスリートが活躍する最高の場を創出

満員の国立競技場の声援の下で、自らのベストを尽くすことができる最高の環境を提供します。

多様な人々の大会への参画

年齢・障害の有無に関わらず誰もが、スポーツの素晴らしさ、多様な価値観を認めあう大切さなどが実感できるよう、大会への参画を推進します。

東京ブランド

街全体でのおもてなし

成熟した社会インフラや温かいおもてなしで歓迎し、東京の魅力を体験できる取組を展開します。

戦略的なＰＲ

様々な広報媒体と連携した広報や気運醸成の取組、大会ロゴを用いた広報PRを展開し、大会の魅力を効果的に発信します。

東京モデル

こどもたちへの観戦機会等の提供

未来を担うこどもたちに大会を観戦する機会を提供し、夢や希望を育む契機にしていきます。

環境負荷の低減

省エネの推進、再エネの活用、環境に配慮した輸送方法の取組等を通じて、脱炭素社会の実現に寄与していきます。

- スポーツ文化の広がり
- 次世代への価値の継承
- ボランティア文化の一層の発展
- 未来につなぐ世界との絆
- 環境配慮行動の気運醸成
- 持続可能な大会モデル

東京2025世界陸上サステナビリティプランの構成

ビジョンの実現に向けた取組

■ 持続可能性の分野に関する取組は、次のとおりです。

多様な人々の大会への参画

- 年齢・障害の有無に関わらず誰もが、スポーツの素晴らしさ、多様な価値観を認めあう大切さなどが実感できるよう、大会への参画を推進します。
- 多様な人々がボランティアとして参加し、一緒に大会を創り上げ、かけがえのない経験を共有するとともに、ボランティア文化のさらなる発展を支援していきます。
- こどもたちが、新たな視野を広げるとともに、スポーツの素晴らしさを感じられるよう、大会の準備・運営に参加できる機会を設けます。

戦略的なＰＲ

- 様々な広報媒体と連携した広報や気運醸成の取組、大会ロゴを用いた広報PRを展開し、大会の魅力を効果的に発信します。

先進的な技術の活用

- 競技会場等で、デジタル技術や環境技術を紹介するなど、大会を通じて東京の先進技術を国内外に発信します。

スポーツを楽しむ機会の創出

- 多くの人がスポーツを楽しむきっかけを提供し、健康増進に向け、継続的にスポーツに取り組むことができるようにしていきます。
- SNSを積極的に活用し、スポーツに興味を持つ人々のコミュニティの輪を広げていきます。

こどもたちへの観戦機会等の提供

- 都内や被災地のこどもたちに観戦機会を提供し、夢や希望を育む契機にしていきます。
- 競技体験、競技についての学び等の機会を提供し、こどもの学び・成長を支援します。

環境負荷の低減

- 省エネの推進、再エネの活用、環境に配慮した輸送方法・車両の活用の取組等を通じて、脱炭素社会の実現に寄与していきます。
- 使い捨てプラスチックの削減や、リースやレンタルの活用など、3Rを推進し環境負荷の少ない大会を目指します。

東京2025世界陸上サステナビリティプランの構成

WAの持続可能性に関する取組

- WAは、2020年4月に策定した持続可能性戦略において、WAが実施・管理し、又はライセンスを供与するすべての大会に、持続可能性の原則を組み込むことを発表しました。
- 持続可能性戦略では、6つの柱（リーダーシップ、持続可能な生産と消費、気候変動と炭素、地域環境と大気環境、グローバルな平等、多様性・アクセシビリティ・ウェルビーイング）が示されています。
- WAでは、持続可能性戦略の6つの柱に沿って大会が実施されているかを評価、測定、採点するシステムとしてAthletics for a Better World Standard（ABW基準）を策定しています。
- ABW基準は、調達、廃棄物管理、エネルギー・食料・水管理、輸送・宿泊計画など、大会運営のあらゆる段階に対応する行動分野から構成されています。スタッフやボランティアの多様性、アクセシビリティ、インクルージョン、すべての参加者とステークホルダーの健康、安全、ウェルビーイングの確保も含まれています。

大会における持続可能性の取組の方向性

- 財団では、基本計画に掲げたビジョンや、WAが示す6つの柱とABW基準も踏まえ、コンパクトで環境に配慮した持続可能な大会の実現を通じて未来に向けた国際スポーツの新しい世界標準、“東京モデル”の確立を目指します。
- 大会を評価するWAのABW基準で最高の評価を目指します。

東京2025世界陸上サステナビリティプランの構成

WAの6つの柱と本大会における取組

6つの柱	気候変動と炭素	持続可能な生産と消費	地域環境と大気環境	グローバルな平等	多様性・ｱｸｾｼﾋﾞﾘﾃｨ・ｳｪﾙﾋﾞｰｲﾝｸﾞ	リーダーシップ
ビジョン実現に向けた取組	環境負荷低減			多様な人々の大会への参画		戦略的なPR
	先進的な技術の活用			こどもたちへの観戦機会等の提供	スポーツを楽しむ機会の創出	先進的な技術の活用
	開催基本計画に掲げた以外の取組も様々に検討					
本大会における取組（分類）	① 気候変動・エネルギー、暑さ対策	② 資源循環・持続可能な調達・廃棄物削減	③ 環境改善	④ 開かれた大会運営等	⑤ 多様性、陸上への関心、ウェルビーイング等	⑥ PR・気運醸成

第2章　主な取組、大会後の報告、ロードマップ

- 主な取組
  - ① 気候変動・エネルギー、暑さ対策
  - ② 資源循環・持続可能な調達・廃棄物削減
  - ③ 環境改善
  - ④ 開かれた大会運営等
  - ⑤ 多様性、陸上への関心、ウェルビーイング等
  - ⑥ PR・気運醸成
- 大会後の報告
- ロードマップ

主な取組

① 気候変動・エネルギー、暑さ対策

■ 次世代型ソーラーセルの活用

- 国立競技場の周辺に次世代型ソーラーセルを搭載した庭園灯を設置します。庭園灯は、大会後も活用されます。

■ バイオ燃料の活用

- 国立競技場に設置する放送事業者用の仮設発電機等にバイオ燃料を利用します。
- 大会関係者の輸送車両の一部にバイオ燃料を利用します。

■ 廃食用油から製造されたSAFの活用

- 都内で回収された廃食用油から製造されたSAF（持続可能な航空燃料）が、選手が移動する際の航空機に使用されます。

■ CO_2排出削減の取組

- 大会で購入する電力については、グリーン電力証書を利用することで再生可能エネルギー電力とします。
- スポンサーと連携し、大会の開催により発生するCO_2と同量のCO_2排出削減プロジェクトに貢献します。

主な取組

① 気候変動・エネルギー、暑さ対策

■ 電気自動車等の活用

- スポンサーと連携し、あらゆる場面で電気自動車等の環境配慮車両を活用します。
  活用例）マラソン競技の審判車両・計時車両、大会関係者の輸送に用いる乗用車など
- 選手の移動は、シャトルバスを利用することで効率化を図るとともに、一部には燃料電池バスを導入します。

■ 公共交通機関の活用

- スタッフ・ボランティアは、公共交通機関を利用します。
- メディア関係者には、公共交通機関の利用を基本とし、交通系ICカードを配付します。

■ 暑さ対策

- 観客向けには、国立競技場周辺やマラソン・競歩コース沿道への冷風設備を備えた休憩所の設置、暑さ対策グッズの配布などを実施します。
- 選手向けには、国立競技場に暑さ指数等の測定機器を設置し、大会関係者へオンラインで情報提供するとともに、選手用医務室の設置やアイスバスの配置を行います。

主な取組

② 資源循環・持続可能な調達・廃棄物削減

■ ボトルtoボトルの実施

- スポンサーと連携し、使用したペットボトルを回収して新たなペットボトルに再生する、水平リサイクル（ボトルtoボトル）を実施します。

■ 持続可能な調達、廃棄物の削減

- 持続可能な調達計画を作成し、備品等の調達では、リース・レンタルを積極的に活用し、物品等の購入では環境に配慮するなど、持続可能な調達を進めています。
- 競技用備品は、適正な財産処分手続きを経て、大会後に譲渡して活用することを検討します。
- 観客へマイボトルの持参を呼びかけていきます。
- 一部で、繰り返し使えるリターナブル瓶についての活用を検討します。
- 飲食料品の容器包装について使い捨てプラスチックの利用抑制を検討します。

■ 食品ロスの削減

- ボランティアへの食事提供について食費相当分のプリペイドカードを配布します。
- 大会関係者への食事提供については、食数精査のほか、冷凍食材などを活用し、食品ロスの発生抑制に最大限努め、それでも発生するものは再生利用を目指します。

主な取組

③ 環境改善

■ 地域の環境改善

- スポンサーと連携し、国立競技場周辺でジョギングしながらゴミを拾うプロギングを実施します。
- WAと連携し、国立競技場に測定機器を設置して大気環境をモニタリングします。大会期間中は、選手・大会関係者に情報提供をします。
- 環境配慮車両の活用やバイオ燃料の利用により、良好な大気環境の維持に努めます。

■ 施設改善と大会後の活用

- 大会を機に、国立競技場、練習会場のトラック等の施設を改善し、大会後も活用していきます。

④ 開かれた大会運営等

■ 多様な人々の大会への参画等

- こどもたちへ大会運営を体験する機会を提供します。
- 年齢、国籍、性別、障害のあるなし等を問わず採用したボランティアが大会運営に参加します。
- 大会関係イベントでは、多様な主体の参画を促進していきます。

■ 公平な大会運営

- 人権や大会運営に関するスタッフ研修を実施します。
- 選手が平等に施設利用できるようチームマニュアルを作成します。
- WAや国際機関が定める基準により、ドーピング検査を公平に実施します。

主な取組

⑤ 多様性、陸上への関心、ウェルビーイング等

■ ダイバーシティ＆インクルージョン

- 職員には多様な人材を採用するとともに、差別の禁止や人権・個性の尊重について行動規範で規定します。

■ アクセシビリティの向上

- スタッフ・ボランティアに、アクセシビリティトレーニングを実施します。
- 会場内外でタブレット端末やディスプレイ等のユニバーサルコミュニケーション機器を活用します。

■ 陸上競技への関心、健康・安全、ウェルビーイングの向上

- 陸上教室を開催するほか、陸上競技の解説や上達するトレーニングを紹介する冊子の配布により、陸上競技への関心の向上を図ります。
- 選手、スタッフ、ボランティア等に対して、セーフガーディングに関する情報をWAと連携し、提供します。

主な取組

⑥PR・気運醸成

■ 環境配慮の気運醸成

- 次世代型ソーラーセルやバイオ燃料等の先進技術について、国立競技場周辺の活用現場でPRします。
- SAFの原料となる廃食用油の回収キャンペーンを東京都と連携して実施し、都民等に協力を呼びかけます。
- 観客等に対して、ごみの分別回収や公共交通機関利用の協力など、環境配慮行動を呼びかけます。
- 東京都やスポンサーと連携し、国立競技場周辺のブース等で持続可能性の取組を発信します。
- 大会公式ウェブサイト、SNS、プレスリリース等の情報発信をします。

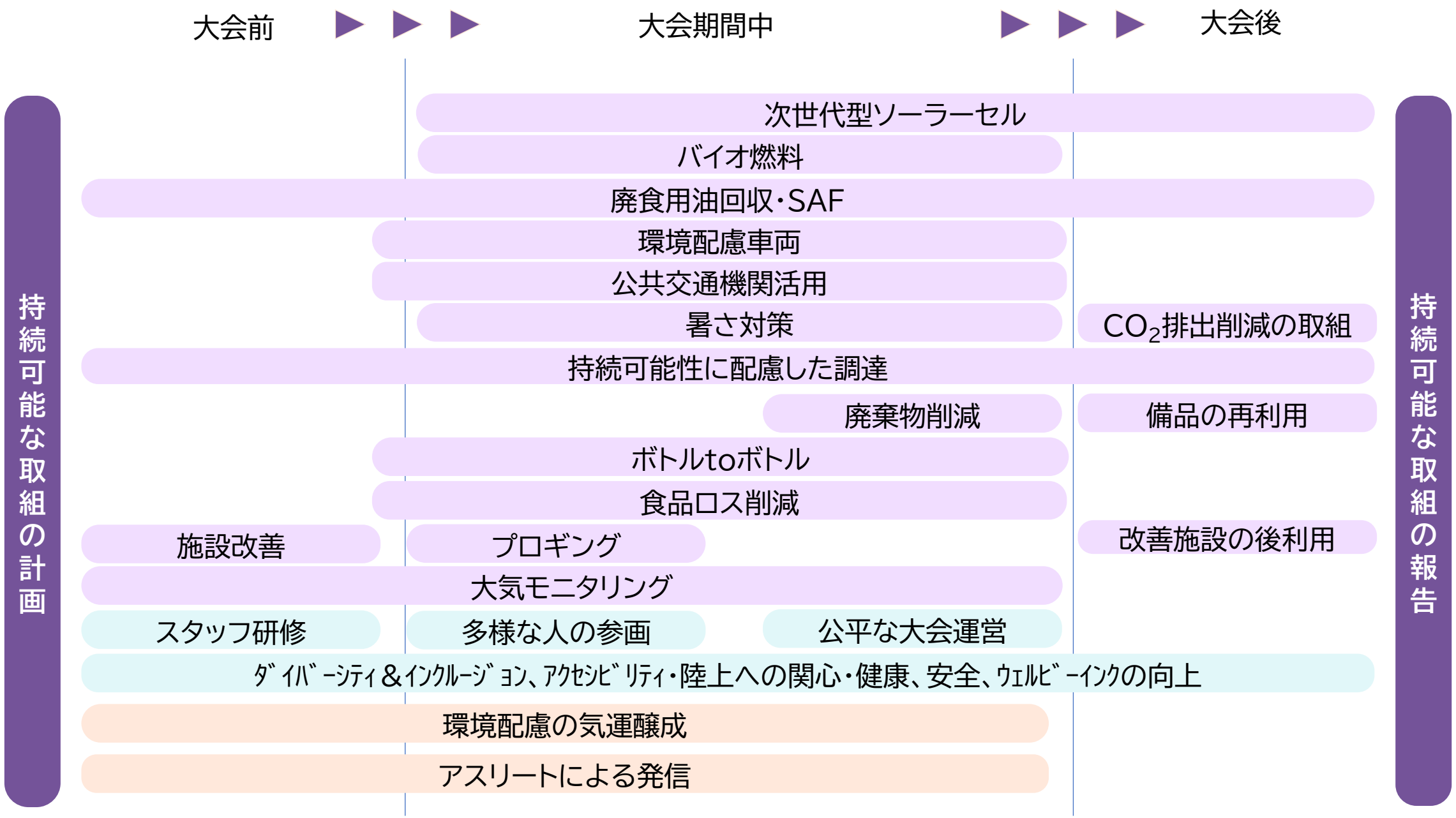
■ アスリートによる発信

- 持続可能な大会に向けた取組について、アスリートの皆様から発信していただきます。また、関係イベントにも協力いただきます。

大会後の報告

■ 大会終了後に、大会における持続可能な取組を取りまとめ、報告します。
■ 主な内容は、取組の実績、統計データ（廃棄物のリサイクル率、カーボンフットプリント、エネルギー・水の使用量等）等です。
■ WAは、大会終了後に、ABW基準に基づき、大会の持続可能性を評価します。

ロードマップ


大会前
大会期間中
大会後
持続可能な取組の計画
持続可能な取組の報告
次世代型ソーラーセル
バイオ燃料
廃食用油回収・SAF
環境配慮車両
公共交通機関活用
暑さ対策
CO_2排出削減の取組
持続可能性に配慮した調達
廃棄物削減
備品の再利用
ボトルtoボトル
食品ロス削減
施設改善
プロギング
改善施設の後利用
大気モニタリング
スタッフ研修
多様な人の参画
公平な大会運営
ﾀﾞｲﾊﾞｰｼﾃｨ＆ｲﾝｸﾙｰｼﾞｮﾝ、ｱｸｾｼﾋﾞﾘﾃｨ・陸上への関心・健康、安全、ｳｪﾙﾋﾞｰｲﾝｸの向上
環境配慮の気運醸成
アスリートによる発信

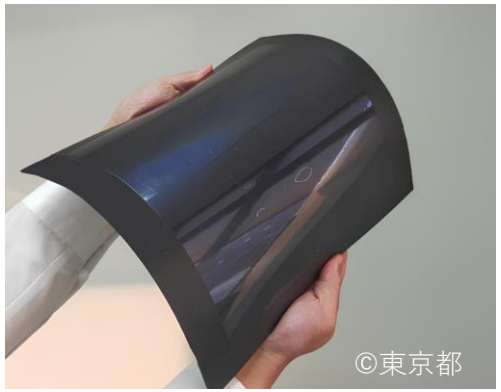
第3章　主な取組のピックアップ紹介

- 次世代型ソーラーセルの活用
- ボトルtoボトル
- バイオ燃料の活用
- 廃食用油から製造されたSAFの活用
- 電気自動車等の活用
- CO_2排出量削減の取組
- 暑さ対策
- セーフガーディングに関する取組

取組のピックアップ紹介

■ 次世代型ソーラーセルの活用

- 大会では東京都の事業により、実用化に向けた実装実証を行います。国立競技場の周辺に次世代型ソーラーセルを活用した庭園灯を設置します。庭園灯は、大会後も活用されます。



次世代型ソーラーセル

【解説】

- 次世代型ソーラーセルは、「薄く軽くフレキシブル」な、日本生まれの太陽電池です。
- その特徴を生かし、あらゆる場所に設置することが可能です。





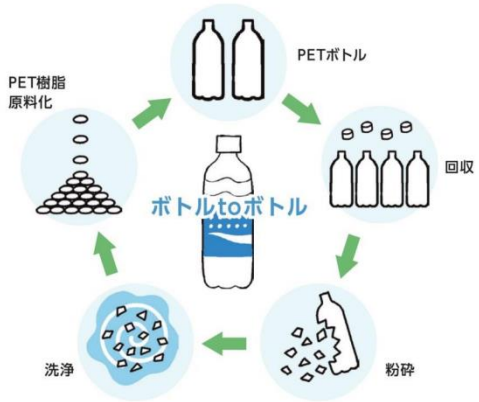
庭園灯イメージ

取組のピックアップ紹介

■ ボトルtoボトル

- 大会では、WAスポンサーの大塚製薬株式会社と連携し、国立競技場や練習会場で使用されたペットボトルを回収して新たなペットボトルに再生するボトルtoボトルを世界陸上で初めて実施します。





【解説】

- ボトルtoボトル水平リサイクルとは、使用済みペットボトルを新たなペットボトルに再生し、使用する循環型のリサイクルシステムです。
- ペットボトルを資源として何度も循環することが可能となり、化石由来原料の使用量やCO_2排出量の削減に繋がり、地球環境の保全に貢献します。



©大塚製薬

取組のピックアップ紹介

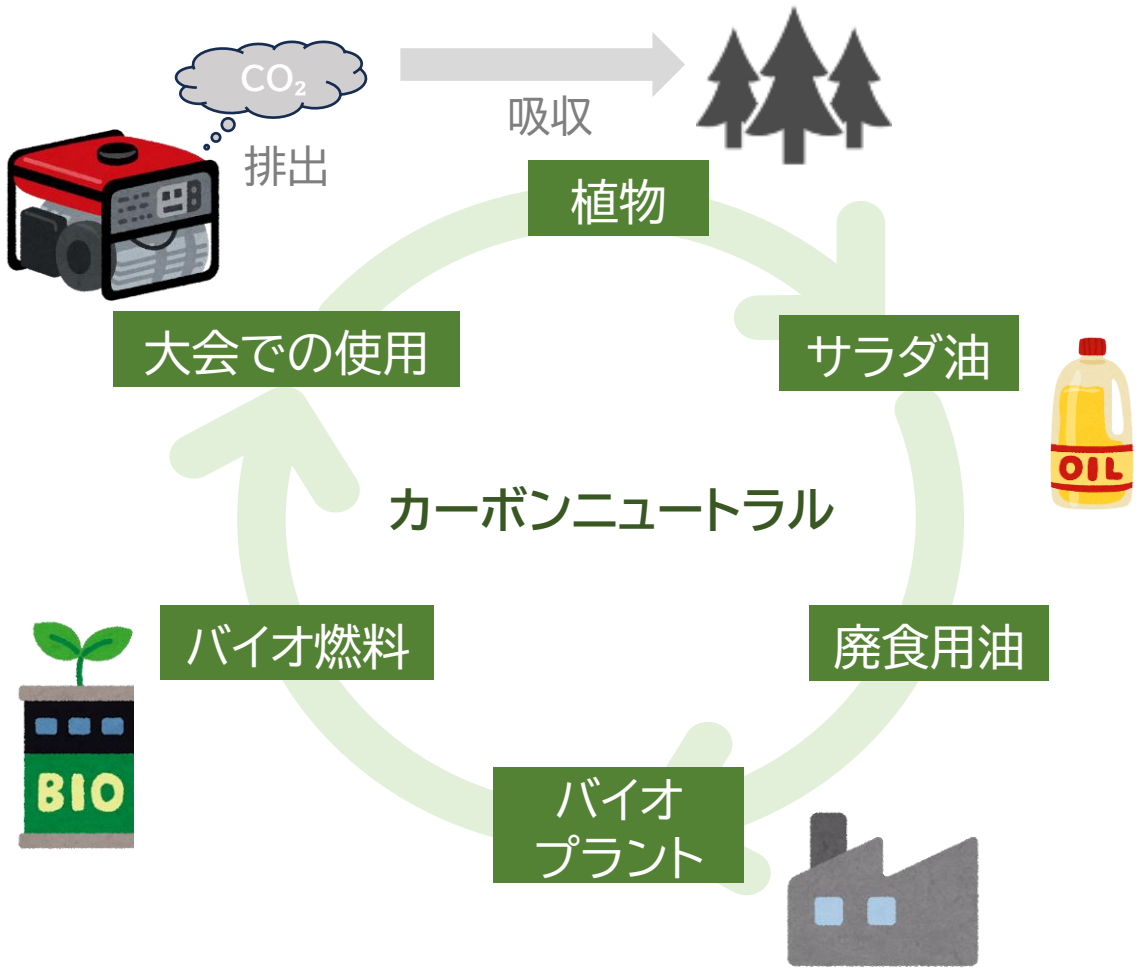
■ バイオ燃料の活用

- 大会では、国立競技場に設置する放送事業者用の仮設発電機に100%バイオ燃料を使用します。
- 100%バイオ燃料による発電としては、国内最大級の規模になります。
- この他にも、練習会場等の仮設発電機や大会関係者の輸送車両の一部にバイオ燃料を利用します。

【解説】

- バイオ燃料は、植物などの生物資源を原料とする燃料です。
- 燃焼時にCO_2を排出しますが、原料が生育過程でCO_2を吸収するため、脱炭素化につながります。

バイオ燃料活用イメージ



取組のピックアップ紹介

■ 廃食用油から製造されたSAFの活用

- 大会を契機として、東京都と連携し、廃食用油の回収をさらに促進する取組を実施します。
- 都内区市町村の公共施設や都庁に設置された拠点で回収された廃食用油から製造されたSAFが、羽田空港発の航空機に使用され、選手等の移動に伴うCO_2を削減します。

SAF製造までの流れ(イメージ)



【解説】

- SAFは、持続可能な航空燃料のことです。廃食用油などを原料とし、従来の化石燃料に比べてCO_2排出量を削減できます。
- 東京都は、近年、国産SAFのサプライチェーン構築に取り組む事業者の後押しや廃食用油の回収促進事業を実施しています。



廃食用油回収イベント

取組のピックアップ紹介

■ 電気自動車等の活用

- WAスポンサーのHondaから、電気自動車等の環境配慮車両の提供を受けて大会のあらゆる場面で活用します。

  【活用例】

  ○マラソン競技の運営で使用する審判車両や計時車両等には、電気自動車、燃料電池自動車、電動バイク等を活用します。

  ○大会関係者の輸送に使用する乗用車には、電気自動車、燃料電池自動車、ハイブリッド自動車を活用します。

- 選手の移動は、シャトルバスによる大量輸送をすることで効率化を図るとともに、一部には燃料電池バスを活用します。

【解説】

- 電気自動車、燃料電池自動車、電動バイクは、走行時にCO_2を排出せず、環境性能に優れています。
- ハイブリッド自動車は、電気モーターとガソリンエンジンの組合せによりCO_2排出量を抑制し、環境性能に優れています。











©Honda

取組のピックアップ紹介

■ CO_2排出量削減の取組

- 大会を通じて発生するCO_2排出量の削減に取り組みます。
- 会場で発電機等に使用する燃料や電力会社から購入する電気によるCO_2排出量については、バイオ燃料の利用や東京都と連携したグリーン電力証書の活用などにより削減を図ります。
- 大会スポンサーの東京ガス株式会社と連携して、対策を講じてもその発生が避けられないCO_2排出量と同量のCO_2排出削減プロジェクトに貢献します。
- 選手・大会関係者の移動に伴うCO_2排出量についても、航空機へのSAFの活用などにより削減していきます。



©環境省

取組のピックアップ紹介

■ 暑さ対策

観客向け（国立競技場内・周辺）

- 国立競技場周辺に冷風設備を備えた休憩所を設置します。
- 休憩所で飲料を提供します。
- 熱中症対策に関する普及啓発を行います。
- 入場待ちの観客向けにミストシャワーを準備します。
- 気流創出ファンにより客席スタンドでの体感温度を低減します。
- 飲料は会場へ持ち込みいただけます。
- 国立競技場周辺でうちわ等の暑さ対策グッズを配布します。
- 観客用医務室の設置やファーストレスポンダーの配置を行います。





取組のピックアップ紹介

■ 暑さ対策

観客向け対策（ロード競技沿道）

- マラソン・競歩コース沿道に冷風設備を備えた休憩所を設置します。
- 休憩所で飲料の提供や暑さ対策グッズを配布します。

選手向け対策

- WAと連携し、国立競技場に暑さ指数等の測定機器を設置します。大会関係者へオンラインで情報提供します。
- 選手用医務室の設置やアイスバスの配置を行います

スタートアップ活用

- スタートアップ企業が持つ暑さ対策技術を大会で活用します。



暑さ対策用休憩所のイメージ

取組のピックアップ紹介

■ セーフガーディングに関する取組

計画等の策定

- 取組の対象、目的及び実施の枠組み等を示した方針や大会期間中の運営を定めた計画を策定します。

取組の周知

- 当財団の方針や対応策について、各団体・組織と連携し、関係者へ周知・情報提供を行います。



セーフガーディングポリシー（表紙・イメージ）

【解説】

□ WAの定義するセーフガーディング

『セーフガーディング』とは、脆弱な人、子供、大人を虐待、嫌がらせ、搾取から保護するための対策を積極的に講じることです。